2017 年 4 月

伊東市・市長選立候補者への公開質問

小野達也氏の回答

質問①…市長になられたときに、伊東市の将来像を考えながら、市の活性化のために重点的に取り組みたい施策を二つに絞ってお答えください。

回答

1、「みんながつくる伊東市」を実現します。

若い世代の市民や移住者、文化関係者らによる「未来ビジョン会議」や地域の声を反映させる「タウンミーティング」を実施するとともにシニア世代にはキャリアを活かせる社会参加の場を創設して市民が主役の伊東市を作ります。

2、「みんなが楽しい、みんなが暮らす伊東市」を創ります。

伊東駅から松川遊歩道、松川河口、オレンジビーチを結んだエリアに市民、観光客が楽しめるスポットを創出するほか、文化会館、多目的図書館の建設を通じて駅周辺や街中の活性化を図り、市全体の文化力向上を目指します。

質問②…伊東市は平成 72 年の人口を 4 万 2 千人とする政策目標を掲げています。市の長期的な人口減少に対処するために、以下の課題をどう考えていますか。お答えください。

(1)子育て支援や子どもの教育支援の充実策について。

回答

地域ぐるみの子育てサロンの充実や高校生世代までの医療費無料化など妊娠期から就学期まで切れ目のない支援策を構築します。また、子どもたちのより望ましい教育環境を整えるため、地域の実情に即した教育環境づくりに取り組みます。

(2)移住・定住促進策。

回答

アンテナショップを活用して暮らしやすい伊東の魅力を発信し、医療、福祉を拡充させた移住促進プログラムを策定するほか、空き店舗の活用、若者の起業支援、U ターン者の奨学金免除制度による市内就職活性化策等を進めます。

質問③…伊東市の一人当たりの所得を向上させるために、産業及び観光振興策についてどのように考えておられるか、具体的にお答えください。

回答

1、第 1 次産業から第 3 次産業までの関連団体の連携による第 6 次産業化を進め、農林水産業や菓子製造等の商工業、観光の結合によって魅力ある地場商品を創り出すなど産業の

振興を図り、所得の向上につなげます。
2、中心市街地では文化会館の建設を含めた駅周辺整備や松川遊歩道の活用等によって、にぎわいを創り出し、南部地域では環境と融和した滞在型リフレッシュリゾートの実現を目指します。
3、健康保養都市のさらなる充実とともに市民や観光客が楽しめる海を活かした施策に取り組むほか、サッカー場、陸上競技場、室内アリーナの建設を進め「生涯スポーツのまち伊東」を実現し、スポーツツーリズムによる誘客を推進します。

質問④…これからさらに増加する伊東市の高齢者(65 歳以上)の生活と福祉を充実させるため、以下の三つの課題について、どのように考えておられますか。具体的にお答えください。

(1)行き届いた医療体制

回答
市民病院のさらなる診療機能充実を図るとともに市内各医療機関との連携を一層強化することによって先進的な医療環境を創り、治療中心の医療だけでなく、病気と付き合いながら暮らす人への健康支援を推進します。

(2)介護の充実

回答
健康寿命を延ばすため、各種介護予防事業へ参加される方の自己負担を軽減するとともに、新設の健康福祉センターを活用しながら医療・福祉・介護・地域と連携し、予防介護と認知症対策の充実を図ります。

(3)高齢者の交通手段の確保

回答
地域公共交通ネットワークを策定し、高齢者の公共交通利用促進を進め、現在 5,000 円が上限となっている東海バス「ゆうゆうパス」、伊豆急行「ゆうゆう電車回数券」購入助成制度の拡充を図るほか、地域の実情に合った取り組みを進めます。

質問⑤…八幡野・赤沢地区の山林に、大規模なメガソーラーを建設する計画が進められています。伊東市の自然景観を保護する観点からこのような大規模開発についてどのように考えますか。

回答
豊かな自然、山や海は伊豆の大切な財産です。我々の大切な財産である自然を破壊する大規模開発行為には断固反対します。今回のメガソーラー建設計画については計画提出後に改定された「土地利用事業の適正化に関する指導要綱」の新しい規定に即して審査すること

を強く求め、森林法・宅地造成等規制法・景観条例等個別法令の対応を県当局に働きかけるほか、環境省の自然保護官とも協議してまいります。

質問⑥…南海トラフ巨大地震等の大災害に備えた伊東市の防災体制の現状と課題について、お答えください。

回答

(現状)平成 28 年度策定の津波避難計画に基づきすぐできるソフト対策を中心に強化し、ハード面では津波避難案内看板整備・救命艇型津波シェルター・同報無線デジタル化を平成 29 年度に実施します。

(課題)ソフト対策で対応できない場合は、避難タワー等のハード対策を検討します。ハード整備には多額の財源が必要となりますので、県議在職時と同様に強く国県へ補助金を要望してまいります。

質問⑦…浜岡原発の万一の事故に備えて、原子力防災の必要性を市民にどのように周知させていこうと考えていますか。また、再稼働の是非についてどう考えますか。

回答

「浜岡地域原子力災害広域避難計画」に基づき、伊東市は避難者の受け入れを行うことになっております。周知については県及び県内各市町村との整合性が必要となるため、十分に連携を図り、協議していきます。原発再稼働の是非については、浜岡原発がある以上、安全対策が実施されることが前提ですが、温室効果ガスによる地球温暖化の問題、再生可能エネルギーへの転換の推移等あらゆるエネルギー問題の状況を十分に勘案したうえで総合的に判断されるべきだと考えます。

質問⑧…行政運営の効率化やプライバシー保護の観点を踏まえて、行政サービスの民間委託を進めることについて、どのようにお考えですか。

回答

若い職員に権限を委譲するなど行政システムを見直すことにより、スピード感ある行政サービスを目指します。民間委託については、個人情報保護条例の規定整備や電算端末への生体認証によるアクセス制限を導入するなど万全な環境整備を進めた上で、市民のプライバシー、個人情報の保護に十分な配慮をしながら民間のノウハウを活用した市民サービスの更なる向上と簡素で効率的な運営が実現できるか検討していきます。

質問⑨…市民の声を行政に反映するために公的なオンブズマン制度を設けている自治体があります。このような市民と行政を繋ぐための制度的な仕組みを作ることについて、どうお考えですか。

回答

複雑高度化する住民要望に的確に対応するため、市民オンブズマンの役割が注目されていますが、市民参加による「未来ビジョン会議」や地域の声を反映させる「タウンミーティング」の実施によって市民が主役の伊東市を創ることで対応していきます。

質問⑩…最後に国政問題について伺います。候補者は以下のテーマの中でどの項目に最も関心がありますか。その理由とともにお答えください。(記号に〇印をつけてお答えください。)

A 憲法改正、B 原発廃炉、C 天皇の生前退位問題、D 消費税の増税、E 少子高齢化問題、F その他(　　)

回答

E 少子高齢化問題

昨年伊東市で出生した新生児は 331 人でした。私たち世代では 950 人の同級生がいました。さらにその前の世代では 1 学年千数百人という時代もあったと思います。人口の減少は伊東市だけの問題ではなく、全国の自治体が頭を悩ませている問題です。このまま人口の減少が続けば、社会を支える労働人口が減少し、産業の衰退を招き、高齢化比率も上昇する結果となります。私は何としても若者たちが安心して結婚し、子育てし、豊かな暮らしができるふるさと伊東を実現したいと考えています。そのためには、観光振興による経済発展、産業の育成等取り組むべき課題が山積しています。誰もが長寿になる社会は本来望むべき姿です。若者が定住し、シニア世代の方々が生き生き活躍して町の活力を生み出す原動力となるような施策に全力で取り組んでまいります。

【公開質問の実施者】

下記の三団体が共同して実施しました。

・伊東を考える市民の会　　代表　亀岡憲一（☎ 38-5343　）

・原子力いいんかい？ @伊東　　代表　中山千夏（☎ 38-3588）

・「平和と人権」市民ネットワーク@伊東 代表　三好康昭（☎45-1182）

【実施方法】

4 月初旬立候補を表明されたお二人に直接質問書を手交し、

20 日までに文書または電子ファイルで回答をいただきました。

いただいた回答を本文のように整理しました。